取扱説明書補足資料－日本語

FUJITSU Software ServerView Suite ServerView Operations Manager 補足情報

2015/3

001-023

目次

■ はじめに

本書は、ServerView Operations Manager V6、V7 に関連する以下のマニュアルの補足情報です。本書をお読みになる前に、必ず以下のマニュアルもご覧ください。

- ServerView Operations Manager Vx.xx (sv-operations-mgr-jp.pdf)
- ServerView Operations Manager Vx.xx Installation under Linux (sv-install-linux-jp.pdf)
- ServerView Operations Manager Vx.xx Installation under Windows (sv-install-windows-jp.pdf)
- ServerView Event Manager (sv-event-mgr-jp.pdf)
- ServerView Inventory Manager (sv-inventory-mgr-jp.pdf)
- ServerView Threshold Manager (sv-threshold-mgr-jp.pdf)
- ServerView Archive Manager (sv-archive-jp.pdf)
- ServerView Performance Manager (sv-performance-jp.pdf)
- Base Configuration Wizard (sv-base-config-wizard-jp.pdf)
- ServerView Online Diagnostics (sv-onldiag-jp.pdf)
- PrimeCollect (sv-primecollect-jp.pdf)
- ServerView でのユーザ管理 (user-mgt-jp.pdf, sv-user-mgt-jp.pdf)

※マニュアル名の「x.xx」にはバージョン番号が入ります

■ 対象バージョン

本書は、以下のバージョンの ServerView Operations Manager(以下 SVOM)を対象にしています。

本書の対象バージョン ： V6.00 以降

V5.00～V5.51 については、ServerView Operations Manager 補足情報[001-009 版]を参照してください。

■ 補足情報

1 インストール要件

▸ Windows/Linux 共通

1.1 名前解決の設定

V5.00 以降では、ブラウザからアクセスする際に、SVOM がインストールされたサーバのホスト名(ネットワーク上のコンピュータ名)もしくは「<ホスト名>.<DNS サフィックス>」を名前解決できるように設定されている必要があります。DNS サーバの設定や、もしくは端末側の hosts ファイルにサーバのホスト名もしくは<ホスト名>.<DNS サフィックス>と IP アドレスを追加するなどして、名前解決できるように設定してください。

SVOM をインストールしたサーバにおいても、SVOM にブラウザでアクセスする場合には、自分自身のホスト名もしくは<ホスト名>.<DNS サフィックス>が名前解決できるように設定されている必要がありま

す。

以下の方法で、名前解決が出来ているか確認してください。

・Windows の場合

tracert <ホスト名>.<DNS サフィックス>

例)

```
tracert svomserver.psd.cs.fujitsu.co.jp
```

・Linux の場合

traceroute <ホスト名>.<DNS サフィックス>

例)

```
traceroute svomserver.psd.cs.fujitsu.co.jp
```

なお、IPv6 と IPv4 の両方が有効になっている場合、ブラウザに入力したホスト名若しくは「<ホスト名>.<DNS サフィックス>」に対して、SVOM のインストール時に入力したサーバの IP アドレスが先に解決される必要があります。

例えば、ホスト名もしくは「<ホスト名>.<DNS サフィックス>」に対して、インストール時に入力したサーバの IP アドレスが「192.168.0.2」などの IPv4 のアドレスであるのに対して、IPv6 のループバックアドレス「::1」などが先に解決される場合、一部の機能が正常に動作しません。

1.2 JRE のインストール

SVOM が動作する為には、サーバ側(SVOM をインストールするサーバ)にも、クライアント側(ウェブブラウザで SVOM を表示する端末)にも、JRE(Java Runtime Environment)をインストールする必要があります。

Windows の場合、それぞれにインストールする JRE は 32bit 版である必要があります。OS が 64bit 版だったとしても、32bit 版の JRE をインストールしてください。

Linux の場合で SVOM のバージョンが V5.10 以前の場合、それぞれにインストールする JRE は、Windows の場合と同様に OS が 64bit 版だったとしても、32bit 版の JRE をインストールしてください。SVOM のバージョンが V5.30 以降の場合、OS と同じアーキテクチャ(32bit には 32bit、64bit には 64bit)の JRE をインストールしてください。

尚、マニュアルに記載されているメジャーバージョンと異なる版数の JRE を使用する場合、動作保証はしません。

▸ Windows

1.3 JRE の設定

JRE(Java Runtime Environment)がバージョン 6 アップデート 19 以降の場合、Java コントロールパネルにて、「次世代の Java Plug-in を有効にする」にチェックを入れてください。

SVOM V4.92 では、この項目のチェックをはずす必要がありましたが、バージョン V5.00 以降の SVOM ではチェックを入れてください。

この項目は、デフォルトではチェックが入っています。以下の方法で確認します。

1. コントロールパネルから、Java コントロールパネルを開きます。
2. 「詳細」タブを選択します。
3. 「設定」-「Java Plug-in」を開きます。
4. 「次世代の Java Plug-in を有効にする」にチェックが入っていることを確認します。

1.4 ネットワークポートの設定

Windows Server 2008 の動的ポート割り当て設定で、開始ポートを変更すると SVOM/Agents が使用するポートと競合し、SVOM、Agents が起動出来なくなる場合があります。

開始ポート設定を変更する場合、SVOM/Agents の使用ポートと競合しない様に注意してください。

2 インストール

▸ Windows

2.1 ディレクトリサービスに Active Directory を使用している場合のアップデートインストール

SVOM が使用するディレクトリサービスに Active Directory を使用している場合で、アップデートインストールを行った場合、SVActiveDirectory.ldif を再度インポートする必要があります。

SVActiveDirectory.ldif のインポート方法の詳細は、マニュアル「ServerView でのユーザ管理」(sv-user-mgt-jp.pdf)の「ServerView ユーザ管理の Microsoft Active Directory への統合」を参照してください。

2.2 ディレクトリサービスに OpenDS、OpenDJ を使用している場合のアップグレードインストール

SVOM に同梱の OpenDS(V6.00 の場合)、もしくは OpenDJ(V6.10 以降)を使用している場合で、SVOM のアップグレードインストールを行った場合、OpenDS Directory Manager のパスワードがデフォルトの"admin"に設定されます。

SVOM アップグレード前に任意のパスワードを設定されていた場合、再度、パスワードの設定を行ってください。

SVActiveDirectory.ldif のインポート方法の詳細は、マニュアル「ServerView でのユーザ管理」(sv-user-mgt-jp.pdf)の「事前定義されたユーザのパスワードの定義／変更」を参照してください。

3 アンインストール

▸ Windows/Linux 共通

3.1 パフォーマンスマネージャのレポート設定

パフォーマンスマネージャのレポートを設定したまま SVOM をアンインストールすると、SVOM－Agents 間に設定の差異が生じます。SVOM をアンインストールする前に、必ずレポートの設定を解除してください。

▸ Linux

3.2 snmptrapd.conf の定義

SVOM をインストールした際、/usr/share/snmp/snmptrapd.conf に以下の行が追記されます。この行は SVOM をアンインストールした場合でも、削除されず残ったままとなります。

```
traphandle default
/opt/fujitsu/ServerViewSuite/web/cgi-bin/ServerView/SnmpTrap/SnmpTrapListen
```

※本書ではページの都合で 2 行で記載されていますが、実際には上記が 1 行で記載されます。

古いバージョンの SVOM をインストールしたことがある場合、古いパスの情報が残ったままとなるので、古いパスの情報は消してください。

4 サーバリストの管理

▸ Windows/Linux 共通

4.1 サーバ名に使える文字

サーバを登録する時、「サーバ名」を変更することができます。その場合、サーバ名に日本語や、記号（"" # & ～ | ¥ + * ? / ; , ( )など）、空白は使用しないでください。

4.2 マネジメントブレードの登録

マネジメントブレードをサーバリストに登録すると、配下のサーバブレードが監視可能となります。この場合、サーバブレードの IP アドレスはマネジメントブレードから自動的に取得されます。

マネジメントブレードは、サーバブレードに搭載されている LAN ポートを、MAC アドレスの小さい順、かつ、通信可能な順で IP アドレスを認識します。そのため、LAN ポートの状態変化によっては、サーバリスト上の監視 IP アドレスが変動することがあります。

IP アドレスの変動を避けるには、サーバのプロパティのブレードのネットワークアドレス設定でブレードにこのアドレスをいつも使用するにチェックを付け、指定可能なアドレスで監視 IP アドレスを選択して下さい。

4.3 LAN 冗長化を行っている場合の設定

サーバブレードでチーミングなどの LAN 冗長化を行っている場合、マネジメントブレードをサーバリストに登録した際に LAN 冗長化を行っているサーバブレードの IP アドレスが 0.0.0.0 と表示される場合があります。この場合、冗長化を行っているサーバブレードは独立したサーバとしてサーバリストに個別に登録してください。

4.4 サーバリストのエクスポート

サーバリストをエクスポートしたファイルは他サーバでもインポートすることが可能です。データベースや OS が違っていてもインポートすることが可能です。

ただし、Linux にインストールされた SVOM へインポートする場合は、Windows（Internet Explorer）で Linux の SVOM へアクセスしてインポートしてください。

エクスポートしたバージョン以降の SVOM にのみ、ファイルをインポートすることができます。

4.5 Citrix XenServer の監視

- XenCenter のプールサーバで管理されている仮想サーバに対して、SVOM を使用して監視する場合、XenCenter で使用している管理者権限のユーザアカウント(root など)を SVOM の「ユーザ/パスワード」に追加する必要があります。

- 複数の XenServer をまとめてリソースプールを作成している環境で XenServer や仮想サーバを SVOM を使用して監視する場合、特定の XenServer に負荷がかかる可能性があります。
  XenServer、仮想サーバの情報を取得するために、サーバリストに登録されている XenServer、仮想サーバの数の分だけリソースプールのマスタノードとなっている XenServer にアクセスを行います。このため、多数の XenServer、仮想サーバが存在する環境ではマスタノードの XenServer に負荷がかかる可能性があります。
  負荷は環境によってことなりますので、事前に問題ないかの確認を行ってください。

  なお、以下の設定を行うことにより、負荷を軽減させることができます。
  必要に応じて設定を変更してください。（詳細な手順についてはマニュアルを参照してください）

  - サーバリストに登録されている仮想サーバのプロパティを開きます。
  - [ネットワーク/SNMP] タブを開きます。
  - タブ内にある [ポーリング間隔] の設定で [指定] を選択し、入力欄に 0 を設定します。

  上記設定を行うことにより、設定を変更した仮想サーバの情報収集を行う定期的なポーリングを行わなくなります。

なお、XenCenter の設定内容については、XenCenter の入手先へ確認してください。

4.6 VMware ESXi サーバの登録

監視対象サーバとして VMware ESXi サーバをサーバリストに登録する際、SVOM の[管理者設定] － [ユーザ/パスワード] にて、対象サーバの OS にログイン可能なユーザ名とパスワードを設定しておく必要があります。

ただし、対象の VMware ESXi サーバのユーザ名/パスワードを 11 個目以降に設定すると、SVOM の [管理者設定] － [サーバブラウザ] において、対象サーバが以下のように正しく検索されません。

・IP アドレスによる検索の結果、サーバ名が n.a.となる。
・サブネットリストによるブラウジング検索の結果、対象サーバが一覧に表示されない。

4.7 仮想サーバ

SVOMにおいて、仮想化ソフトウェアをサーバリストに登録した場合、配下の仮想サーバに対してSNMPアクセスを行います。

仮想化ソフトウェアをサーバリストに登録した際に設定されているコミュニティ名が、配下の仮想サーバにも引き継がれます。サーバリストに登録後は、[サーバのプロパティ] － [ネットワーク/SNMP]タブを開いて、各仮想サーバのコミュニティ名について確認を行ってください。コミュニティ名が異なっている場合、認証エラーが生じます。

また、仮想サーバに対して以下を実施する場合、仮想サーバ上でSNMPサービスを起動させる必要があります。

・接続状態変更トラップの有効。
・シングルシステムビューを開く（仮想サーバの場合、表示可能な項目に制限があります）。

4.8 仮想(ゲスト)システムに対する SNMP ポーリングについて

SVOM は、サーバリストに登録された仮想(ゲスト)システムに設定されている全ての IP アドレスに対して SNMP ポーリングを実施します。
特定の IP アドレスにのみ SNMP ポーリングを行うことは出来ません。
ただし、サーバのプロパティでポーリング間隔を 0 秒に設定することにより、該当の仮想(ゲスト)システムに対して SNMP ポーリングを一切行わないようにすることが可能です。

- サーバリストより SNMP アクセスを停止したい仮想(ゲスト)システムを選択し右クリックメニューからサーバプロパティを選択
- ネットワーク/SNMP タブのポーリング間隔の項目で指定にチェックを付け、0 秒を指定

ただし、上記設定を実施すると仮想(ゲスト)システムに対するSNMPポーリングが無効となるため、仮想(ゲスト)システムのステータス監視が行われなくなります。

4.9 接続状態変更トラップについて

[サーバのプロパティ] － [ネットワーク/SNMP]タブで設定可能な「接続状態変更トラップ」は、対象サ

ーバのステータスが以下のように遷移した場合にトラップを送信します。

・ok → notmanageable

・ok → unknown

・snmpOK/cimOK → notmanageable

・snmpOK /cimOK→ unknown

・notmanageable → ok

・notmanageable → snmpOK/cimOK

・unknown → ok

・unknown → snmpOK/cimOK

上記の各ステータスの意味は以下の通りです。

ステータス	意味
ok	正常
snmpOK	ServerView Agent は応答していないが、SNMP は応答している
cimOK	ServerView CIM Providerは応答していないが、CIM Provider は応答している
notmanagble	SNMP または、CIM provider は応答していない
unknown	コンポーネントが利用不可

5 アラームモニタ

▸ Windows/Linux 共通

5.1 SNMP バージョン

SVOM は SNMPv1 に準拠したトラップのみをサポートしています。

5.2 サーバ情報

アラームモニタのサーバの情報タブで表示される情報は、サーバリストに登録したサーバの設定情報が表示されます。トラップ情報ではありませんのでご注意ください。

※サーバリストに登録されていないサーバからのトラップの場合、ここで表示されるコミュニティ名は「public」となります。

6 アラーム設定

▸ Windows/Linux 共通

6.1 アラームルール名・アクション名

アラームルール名、及びアクション名に使用できる文字は、半角英数字と _ のみとなります。
使用可能な文字以外の文字をアラームルール名やアクション名に使用した場合、使用したアラームルール、アクションを含めたすべてのアラームルール、アクションが正常に動作しない場合があります。

6.2 プログラム実行

- アクションの割り当ての「プログラム実行」で利用できるコマンドは CUI コマンドに限られます。
- コマンドラインに加えられるマクロを引数として使用する場合、受け取った内容によっては、データ内に空白があり、その前後でデータが分かれ、期待通りにデータが受け取れない可能性があります。その場合、マクロ部分を""(ダブルクォーテーション)で括ってください。

6.3 例) "$_TRP" : トラップテキストの場合メール

アクションの割り当てで複数の「メール」のアクションを設定する場合、[メールプロパティ]タブで異なるSMTPの設定はできません。

7 サーバデータの詳細表示(シングルシステムビュー)

▸ Windows/Linux 共通

7.1 ASR&R の設定

ASR&R の設定内容は、SVOM/Agents には保持されません。サーバ本体の BIOS／BMC(RSB／iRMC)に格納されます。

7.2 診断情報収集(PrimeCollect)

診断情報収集(PrimeCollect)を実行した際、CAS サーバエラーや証明書エラーなどが表示され正常に動作しない場合があります。この場合、以下の内容を確認してください。SVOM にアクセスするブラウザを実行している監視端末も対象となります。

・SVOM と対象サーバの間でネットワークポート 3170 番と 3172 番が開放されていること。
・対象サーバから SVOM に対して名前解決が正しく行なわれていること。
・SVOM の証明書と対象サーバの証明書の整合性が取れていること。

8 MIB インテグレータ

▸ Windows/Linux 共通

8.1 ネットワーク機器からのトラップ

ネットワーク機器の MIB ファイルを登録することによって、その機器から送られたトラップの表示および、受信したトラップに対する動作の設定を行うことができます。

尚、あらかじめ対象のネットワーク機器をサーバリストに登録しておく必要があります。登録する際、サーバの種類は「Other」とします。

9 その他

▸ Windows/Linux 共通

9.1 SVOM がアクセスするネットワークポート

SVOM は SVOM のサーバブラウザ画面において、サーバを検索する際に、サーバブラウザ画面で指定したサブネット内のサーバに対して、以下のネットワークポートへアクセスを行います。

80, 135, 161, 443, 623, 3172, 5988, 5989, 9363, 16509, 16514

同じくサーバブラウザ画面で、サーバを登録する際には登録するサーバの上記ネットワークポートにアクセスを行います。またサーバを登録後は、登録されたサーバに対して、上記ネットワークポートにアクセスを行います。

SVOM は、ネットワークポートが共有されていても問題が起きない構造としておりますが、指定したサブネット内、及び SVOM に登録したサーバで上記ネットワークポートへのアクセスを占有したい等の理由で不都合がある場合には、不都合のあるプロダクト側でポートを移動するなどの対処を行ってください。

※サーバの種類や OS によって、上記のアクセスが行われない場合があります。

9.2 サーバ名および IP アドレス変更後の操作

インストールしたサーバの IP アドレスやホスト名、DNS サフィックスを変更した場合、以下を実行する必要があります。

Windows 環境の場合、コントロールパネルの「プログラムの追加と削除」(Windows 2003 の場合)もしくは「プログラムと機能」(Windows 2008 の場合)で、V6.00 の場合は「Fujitsu ServerView Operations Manager」を選択して、「変更」ボタンをクリックします。変更インストールのダイアログが表示されますので、メッセージに従って操作を行います。V6.10 以降の場合は「Fujitsu ServerView JBoss Application Server」を選択して、「変更」ボタンをクリックして変更インストールを実施し、その後続けて「Fujitsu ServerView Operations Manager」を選択して変更インストールを実施します。

尚、ServerView Operations Manager が使用するディレクトリサービスとして、ServerView Operations Manager に同梱の OpenDS(V6.00 の場合)もしくは OpenDJ(V6.10 以降)を使用していた場合、修正インストールの「ディレクトリサーバの選択」ダイアログでは、「OpenDS をインストールする」もしくは「OpenDJ をインストールする」を再度選択してください。使用するディレクトリサービスを変更する場合にのみ「既存のディレクトリサービスを使用する」を選択してください。

Linux 環境の場合、以下のコマンドを実行します。

```
# /opt/fujitsu/ServerViewSuite/svom/ServerView/Tools/ChangeComputerDetails.sh
```

変更後の設定を確認するメッセージが表示されます。メッセージに従って入力を行ってください。

また、サーバリストに変更前のサーバ名や IP アドレスが監視対象として残ったままとなる場合があります。その場合、SVOM が変更前の IP アドレスへアクセスし続けることになりますので、次の方法で変更前のサーバ名及び IP アドレスの監視エントリを削除してください。

1. サーバリストより削除対象のサーバ名を選択し、右クリックします。
2. メニューから「削除」をクリックします。

9.3 ログインユーザのパスワードに使用可能な文字

ログインユーザのパスワードには、半角英数記号が使用可能です。ただし、UserAdministrator 権限を持つユーザが他のユーザのパスワードを設定する場合「"(ダブルコーテション)」を使用することはできません。その他の権限を持つユーザが自分自身のパスワードを設定する場合は、「"」も使用可能です。

9.4 SVOM 及び Agents に必要なユーザ設定

SVOM を運用するにあたって以下の 4 種のユーザ設定が存在します。

(1) SVOM のログインに用いられるユーザ設定
(2) SVOM から監視対象の Agents に値を設定する際に必要なユーザ設定
(3) SVOM が監視対象の OS/iRMC/ETERNUS DX に接続する際に用いられるユーザ設定
(4) SVOM のサービスに関連するユーザ設定

以下にこれらを説明します。

(1) SVOM のログインに用いるユーザ設定

- SVOM の起動画面で入力を求められます。
- SVOM の参照する OpenDS(デフォルト)または ActiveDirectory に設定されています。
- OpenDS を使用している場合、ユーザ名に以下の文字は使用することができません。
  - "=|[]:*;+,<>?/!#$'()^¥~@`{}
  - 空白
  - 日本語等の 2 バイト文字
- V6.20 より前の SVOM で OpenDS/OpenDJ を使用している場合、パスワードに以下の文字は使用することができません。V6.20 以降では、パスワードの使用文字に制限はありません。
  - "=|[]:*;+,<>?/
  - 空白
- OpenDS/OpenDJ 使用時のユーザ/パスワードの最大文字数
  - ユーザ/パスワードとも 1000 文字以上可能

(2) SVOM から監視対象の Agents に値を設定する場合に必要なユーザ

- SVOM において以下を実施する場合にユーザ名/パスワードを求められます。

- 表示識別灯を点灯させる場合
- 「サーバの設定」画面でツリーから各サーバを選択した場合。
- パフォーマンスマネージャ画面で、レポートセットを作成し、「サーバへの適用」を実行した場合。

- 監視対象のAgentsで上記の操作を許可するグループを設定します。上記の操作を行う場合、表示されるダイアログに、監視対象の Agents で設定したグループに所属するユーザ/パスワードを入力します。
- ユーザ/パスワード入力の最大文字数
  - ユーザ:20 文字
  - パスワード:128 文字

監視対象の Agents で上記の操作を許可するグループの設定は、以下の方法で行います。

- ServerView Agents for Windows の場合

1. 「Agent Configuration」を起動します。
   スタート－[すべてのプログラム] – [Fujitsu] – [ServerViewSuite] – [Agents] – [AgentConfiguration]から起動します。
2. 「セキュリティ設定」タブを開きます。
3. 「パスワードによる保護を有効にする」にチェックを入れます。
   この項目にチェックを入れていない場合、上記の操作を行う場合にもユーザ名/パスワードは求められません。
4. 「ユーザグループ」に任意のグループ名を入力します。
   SVIMを使用してAgentsをインストールした場合、もしくはインストールウィザードのセットアップレベル画面で選択肢を選ばずにインストールした場合、”FUJITSU SVUSER”が入力されています。
   この項目に何も入力せずに空白を設定した場合は、Administrators グループに所属するユーザが上記の操作を行うことができるようになります。
5. 「適用」ボタンをクリックします。

- ServerView Agents for Linux の場合

ファイル「/etc/srvmagt/config」の「UserGroup」に任意のグループ名を設定します。その後、ServerView Agents for Linux を再起動します。
デフォルトでは、以下の値が設定されています。

UserGroup=svagtuser

(3) SVOM が監視対象の OS/iRMC/ETERNUS DX に接続するためのユーザ

- SVOM において以下を実施する場合に、予め SVOM の画面の[管理者設定] － [ユーザ/パスワード] に対象のサーバの OS にログイン可能なユーザ名とパスワードを設定しておく必要が

あります。

- サーバリスト上から「電源制御」を行う場合
- 仮想 OS のホストをサーバリストに登録する場合
- スレッシュホールドマネージャを使用する場合
- シングルシステムビューの項目「パフォーマンス」を有効にする場合
- ストレージ情報を表示する場合

- ユーザ/パスワード入力の最大文字数
  - ユーザ:256 文字
  - パスワード:16 文字

(4) SVOM のサービスに関連するユーザ

- Windows 環境に SVOM をインストールする際に、SVOM のサービスである「ServerView JBoss Application Server」及び「ServerView Download Service」を実行するユーザを設定する必要があります。
- 通常、インストール時以外には設定 / 変更の必要はありません。
- ユーザ/パスワードの最大文字数
  - ユーザ:20 文字
  - パスワード:63 文字

9.5 SVOM サービス停止中の注意

バックアップなどの採取により SVOM 関連のサービスを停止している間は、サーバの監視やトラップの受領などが行われません。

9.6 関連ファイルの編集

SVOM/Agents 関連ファイルの編集、追加、削除などは、動作に影響を及ぼす可能性がありますので、マニュアルに記載されている内容以外は一切行わないでください。

9.7 Java Exception (Java 例外)

SVOM の画面を閉じるとき、Java の Exception が発生する場合があります。SVOM の動作に影響はありません。

9.8 SVOM がアクセスする IP アドレス

サーバリストに登録されている監視対象サーバの IP アドレスに対して通信ができなかった場合、SVOM では監視対象サーバが持つ他の IP アドレスに対してもアクセスを行う可能性があります。

Windows

9.9 JRE のアップデート

JRE(Java Runtime Environment)をアップデートする場合、ServerView Operations Manager の

以下のサービスを停止してから、JRE のアップデートを行ってください。

以下に記載の順番に、サービスを停止してください:

1. ServerView Download Service
2. ServerView Services
3. ServerView JBoss Application Server 5.1 または ServerView JBoss Application Server 7

JRE をアップデートした後、以下の通り、停止したのと逆の順番でサービスを開始してください:

1. ServerView JBoss Application Server 5.1 または ServerView JBoss Application Server 7
2. ServerView Services
3. ServerView Download Service

9.10 Network Node Manager との連携

ServerView Suite DVD V10.10.07 以降より、NNM(Network Node Manager)連携モジュールの提供は行っていません。

以降のバージョンにてトラップ連携を行う場合には、利用者作業にてメッセージ変換ファイルの修正/作成を行って下さい。

参考資料情報

『HP OpenView ネットワークノードマネージャ ネットワーク管理ガイド』

『HP OpenView ネットワークノードマネージャ 登録ファイルガイド』

『NNM リファレンスページ』の trapd.conf 項目

ServerView の MIB は、ServerView Suite DVD に格納されている下記 MIB パッケージより入手可能です。

¥SVSSoftware¥Software¥ServerView¥MIBs¥

9.11 システムバックアップ

SVOM は常時ファイルの書き換えやデータベースへのアクセスを行っています。システムバックアップ時には、必要に応じて以下の順に SVOM のサービスを停止してください。

1. ServerView Download Service
2. ServerView Services
3. ServerView JBoss Application Server 5.1 または ServerView JBoss Application Server 7
4. ServerView Remote Connector
5. SQL Server（SQLSERVERVIEW）

※起動は上記と逆順で行います。

9.12 ディレクトリサービスを変更する場合の操作

Active Directory サーバを変更する場合など、使用するディレクトリサービスを変更する場合は、「10.2 サーバ名および IP アドレス変更後の操作」と同様の操作を行い、『ディレクトリサーバの選択』ダイアログでディレクトリサービスの設定を変更してください。

Linux

9.13 cron に登録されるジョブ

定期的にデータのバックアップを行うため次のジョブが cron に登録されます。

ジョブ説明:

Weekly　1 週間(曜日、時刻はシステム稼働に依存)ごとにデータベースをバックアップします。
Daily　1 日(時刻はシステム稼働に依存)ごとにデータベースの差分をバックアップします。

これらのジョブを、cron から削除したり、無効にしたりしないでください。動作時刻はシステムの稼働状況に依存します。詳しくは、cron の仕様を確認してください。

バックアップデータは、次のディレクトリ配下に格納されます。

/var/fujitsu/ServerViewSuite/ServerViewDB/backup

9.14 追加されるユーザ/グループ

SVOM をインストールすると、ユーザ: svuser, postgpls、グループ: svgroup, postgpls が作成されます。

これらユーザ/グループのユーザ ID、グループ ID、ログインシェル、ホームディレクトリなどの変更は、動作に影響を及ぼすので、一切行わないでください。

9.15 OpenSSL パッケージのアップデートについて

OpenSSL パッケージのアップデートを行うと以下のメッセージが表示され、SVOM が停止します。

```
Please be patient, it may be a lengthy operation ...
Shutting down sv_watchdogd: [  OK  ]
Note:
If you uninstalled openssl, then ServerViewOperationsManager cannot work.
You need to install openssl, and execute the commands described below.
If you upgraded openssl, please check whether ServerViewOperationsManager works.
If not, the links to libraries may be wrong. Please execute the following commands
...(略)
```

SVOM では、OpenSSL のライブラリにリンクを張っています。そのため、SVOM がインストールされた状態で OpenSSL パッケージのアップデートを行うと、ライブラリへのリンクが切れ、SVOM のプロセス"SVServerListService"が起動できません。この場合、以下の確認/対処を行ってください。

SVOM、SVRemoteConnector では、それぞれ以下の箇所でリンクを張っています。

- SVOM
  /usr/lib/serverview
  libcrypto.so -> /usr/lib/libcrypto.so.x.x.x
  libssl.so -> /usr/lib/libssl.so.x.x.x
- SVRemoteConnector

  /opt/fujitsu/ServerViewSuite/SCS/lib

  libcrypto.so.x.x.x -> /usr/lib/libcrypto.so.xx

  libssl.so.x.x.x -> /usr/lib/libssl.so.xx

OpenSSL のアップデートによってリンク先（/usr/lib 配下）が変更されている場合は、リンクの張り直しを行ってください。

また、OpenSSL をアップデートした場合は、対象のライブラリをロードするために SVOM、SVRemoteConnector の再起動を行ってください。

```
# /usr/bin/sv_services restart -withSCS
```

9.16 Update Manager 使用時のサーバリストへサーバブレードの 2 重登録について

Update Manager の機能を使用する際は同じサーバブレードを 2 重に登録(マネジメントブレード、および独立して表示されるサーバブレード)しないでください。

2 重に登録を行っているサーバブレードに対し Update Manager でアップデートを行う場合は独立して表示されるサーバブレードで登録した方を削除してから行ってください。

9.17 Update Manager でアップデートした PSP に含まれるドライバに対し、手動で更新/削除を行った場合

PSP に含まれるドライバに対し、手動でインストール/アンインストールを行った場合、Update Manager で正常にバージョン管理出来ません。

PSP に含まれるドライバに対し、PrimeUp を利用してインストール/アンインストールを行う場合は "sv-update-mgr-jp.pdf" の

"アップデートマネージャを使用しないアップデート可能なコンポーネントのインストール/アンインストール" を参照してください。

9.18 使用する FireFox のアーキテクチャ

SVOM をインストールしたシステム上で SVOM にログオンする場合、使用する FireFox は OS のアー

キテクチャと同じアーキテクチャの FireFox を使用する必要があります。
適切なアーキテクチャ FireFox がインストールされているかを確認してください。

9.19 ServerView RAID Manager でのポート番号変更

ServerView RAID Manager のマニュアルにあるポート番号の変更を実施した場合、SVOM としては正常動作保障外となります。

Agents においても動作保証外であり、実施した場合、RAID 関連のステータスが取得できず、RAID Manager とのステータス連携ができません。そのため、SVOM としてもシングルシステムビューにおいて以下の事象が生じます。

- 「外部記憶装置」の各項目、およびステータスが正しく表示されない。
- 「RAID 設定」(RAID Manager の起動)のリンクが表示されない、もしくはリンクが有効ではない。

等

10 トラブルシューティング

▸ Windows/Linux 共通

10.1 接続テストが正常とならない

- すべての項目が正常にならない場合

状況	原因	対処
PING の通信ができていません。	LAN が接続されていない、または LAN の接続経路が確立されていない場合があります。	PING が通りますか？PING を有効にしてください。PING の応答がない場合、接続テストは実行されません。PING が通るように LAN 環境を見直してください。
	対象のサーバがファイアウォールで通信遮断されている場合があります。	

- 「SNMP」の項目が正常にならない場合

状況	原因	対処
SNMP サービスから応答があり	ファイアウォールなどで SNMP(ポート 161/162)通信が	ファイアウォールの設定を確認し

ません。	遮断されていませんか？	てください。
	SNMP Service サービスは起動していますか？	SNMP Service サービスを起動してください。
	SNMP Service サービスの設定で管理サーバの IP からの書き込みが抑止されていませんか？	SNMP の設定(SNMP Service サービスのプロパティ、snmpd.conf)を確認してください。

- 「ノードタイプ」の項目が正常にならない場合

状況	原因	対処
ServerView Agents から応答がありません。	ServerView Agents がインストールされていますか？	ServerView Agents をインストールしてください。
	ServerView Agents のサービス(ServerView Server Control サービス、eecd サービス)が起動していますか？	ServerView Agents のサービスが停止している場合は起動してください。 ServerView Agents のサービスが起動している場合は、再起動してください。

- 「テストトラップ」の項目が正常にならない場合

テストトラップを受けていないのか、受けているが正常にならないのか確認をしてください。

状況	原因	対処
トラップを受けていません。	管理サーバからトラップを受け付ける設定になっていますか？	管理サーバ側の SNMP Trap サービスが起動しているか確認してください。 SNMP の設定(SNMP Service サービスのプロパティ、snmpd.conf)を確認してください。
	対象サーバのトラップ送信先はあっていますか？	対象サーバ側の SNMP の設定(SNMP Service サービスのプロパティ、snmpd.conf)で送信先を確認

		してください。
	設定ファイルを変更していませんか？	Linux の場合、/usr/share/snmp/snmptrapd.conf にトラップ受信設定が記述されています。 このファイルに変更を加えると、トラップが受信できなくなる場合があります。 設定を確認してください。

10.2 サーバが管理不可能と表示される

サーバが管理不可能と表示された場合は、次の項目を確認してください。

- ネットワーク環境の確認項目

  - LAN ケーブルが正しく接続されていますか？LAN ケーブルを正しく接続してください。
  - ネットワーク機器(ルータ、HUB など)は正常に動作していますか？ネットワーク機器を確認してください。
  - 「監視対象サーバ」←→「SVOM をインストールしたサーバ」間のネットワーク機器において、SNMP プロトコルの通信ポート(udp 161 番、及び udp 162 番)が遮断されていませんか？遮断されている場合は、遮断解除設定を行ってください。

- SVOM をインストールしたサーバの確認項目

  - 監視対象サーバに対して、ping が通りますか？ping が通らない場合、ネットワーク周りの設定を確認してください。
  - 監視対象サーバの IP アドレスは正しいですか？監視対象サーバの IP アドレスを確認し、正しい IP アドレスを設定してください。
  - 監視対象サーバで設定されている SNMP Service サービスのコミュニティが、「サーバのプロパティ」－「ネットワーク/SNMP」タブ－「コミュニティ名」に設定されていますか？コミュニティ名が異なる場合、コミュニティ名を合わせてください。また、同じコミュニティ名が設定されている場合でも、前後に空白が設定されている可能性もあります。不要な空白は削除してください。
  - ネットワークあるいはコンピュータの負荷が高い場合、時間内に処理が終了せず、「管理不可能」アイコンが表示される場合があります。この場合は、次の手順でポーリング間隔、タイムアウト値、更新間隔を変更することで、負荷を低減し、タイムアウト値の延長を行うことができます。
    1. 「サーバの一覧」から問題があるサーバを右クリックし、表示されたメニューから「サーバのプロ

パティ」→「ネットワーク/SNMP」タブの順にクリックします。

2. 環境に合わせて設定値を変更します。

項目	説明
ポーリング間隔	サーバをポーリングする時間の間隔です。ここで指定した間隔ごとに、システムの情報をサーバに要求します。(デフォルト 60 秒)
タイムアウト	要求に対するサーバからの応答に待機する時間です。(デフォルト 5 秒)
更新間隔	表示内容を更新する間隔です。(デフォルト 60 秒)

- これらの項目の適切な値は、負荷の状況によって異なります。何度か設定を試してみて最適な値を決定してください。
- タイムアウト値に大きすぎる値を設定すると、本当に管理不可能な場合の反応も遅れてしまいます。大きすぎる値(12 秒以上)は設定しないようにしてください。

- 監視対象サーバ(Windows)の確認項目

  - ファイアウォールにより、ICMP(PING)またはSNMP ポート(udp 161 番)が遮断されていませんか？遮断されている場合は、遮断解除設定を行ってください。ファイアウォールの詳細については、インストールしているファイアウォールソフトウェアのマニュアルをご覧ください。
  - ServerView Agents がインストールされていますか？インストールされていない場合は、インストールしてください。
  - SVOM で、「サーバのプロパティ」に設定した SNMP コミュニティ名が、「SNMP Service」のプロパティに設定されていますか？コミュニティ名が異なる場合、コミュニティ名を合わせてください。また、同じコミュニティ名が設定されている場合でも、前後に空白が設定されている可能性もあります。不要な空白は削除してください。
  - ServerView Agents(SNMP Service サービス、ServerView Server Control サービス)が起動していますか？起動していない場合、起動してください。
  - ServerView Agents(SNMP Service サービス、ServerView Server Control サービス)が正常動作していない可能性があります。ServerView Agents を再起動してください。再起動しても、解決しない場合は、ServerView Agents を再インストールしてください。
  - SNMP を使用する他製品の影響により、管理不可能となっている可能性があります。他製品の SNMP を無効化してください。

- 監視対象サーバ(Linux)の確認項目

  - ファイアウォールにより、ICMP(PING)またはSNMP ポート(udp 161 番)が遮断されていませんか？遮断されている場合は、遮断解除設定を行ってください。ファイアウォールの詳細については、インストールしているファイアウォールソフトウェアのマニュアルをご覧ください。なお、OS 標準のファイアウォール(パケットフィルタ)としては、iptables、tcpwrapper(/etc/hosts.deny, /etc/hosts.allow)などがあります。

- ServerView Agents がインストールされていますか？インストールされていない場合は、インストールしてください。
- SVOM で、「サーバのプロパティ」に設定した SNMP コミュニティ名が、snmpd.conf に設定されていますか？コミュニティ名が異なる場合、コミュニティ名を合わせてください。また、同じコミュニティ名が設定されている場合でも、前後に空白が設定されている可能性もあります。不要な空白は削除してください。
- ServerView Agents(snmpd, eecd, srvmagt, srvmagt_scs)が起動していますか？起動していない場合、起動してください。
- ServerView Agents(snmpd, eecd, srvmagt, srvmagt_scs)が正常動作していない可能性があります。ServerView Agents を再起動してください。再起動しても、解決しない場合は、ServerView Agents を再インストールしてください。
- SNMP を使用する他製品の影響により、管理不可能となっている可能性があります。他製品の SNMP を無効化してください。
- snmpd.conf の中に「com2sec svSec localhost <SNMP コミュニティ名>」行がない可能性があります。この行がない場合は追加してください。

10.3 SVOM 起動時にエラーが表示される（HTTP 500、HTTP 404 や Internet Explore ではこのページは表示できません など）

- Java Runtime Environment(JRE)がインストールされていることを確認してください。
- SVOM が使用するネットワークポートが他のプログラムによって占有されていないか確認してください。

  SVOM が使用するネットワークポートは、マニュアル「ServerView Operations Manager V5.xx Installation under Windows」(sv-install-windows-jp.pdf)、もしくは「ServerView Operations Manager V5.xx/V6.xx Installation under Linux」(sv-install-linux-jp.pdf)を参照してください。(マニュアル名の「xx」にはバージョン番号が入ります)
- SVOM をインストールしたサーバの名前解決ができることを確認してください。

  サーバ側 (SVOM をインストールするサーバ)と、クライアント側(ウェブブラウザで SVOM にアクセスする端末)の両方で、名前解決ができるように設定されている必要があります。

  以下のコマンドを実行して、正常に名前解決が行われていることを確認します。

  Windows の場合

  tracert <サーバのコンピュータ名>.<DNS サフィックス >

  Linux の場合

  traceroute < サーバのコンピュータ名>.<DNS サフィックス >
- インストール時にファイルが正しくコピーされなかった可能性があります。

  一旦アンインストールして、インストール先のフォルダ内のファイル・フォルダを全て削除した後、再度インストールを行ってください。
- SVOM と同じサーバに「Interstage Application Server(IAS)」がインストールされていた場合、

以下を行ってください。尚、SVOM を上位のバージョンへのアップデートを行ったり、同一バージョンにおいて変更インストールを行うと、以下で編集したファイルが書き換えられて編集前の状態に戻ります。アップデートや変更インストールを行った場合、再度以下の編集を行ってください。

＜ファイル＞

<SVOM インストールフォルダ>¥ServerView Suite¥jboss¥bin

run.conf.bat

例）・32 ビット版 Windows OS の場合

C:¥Program Files¥Fujitsu¥ServerView Suite¥jboss¥bin

・64 ビット版 Windows OS の場合

C:¥Program Files (x86)¥Fujitsu¥ServerView Suite¥jboss¥bin

＜変更箇所＞

- SVOM のバージョンが V5.30 以前の場合

rem set "JAVA_HOME=C:¥opt¥jdk1.6.0_13"

この行のコメントアウトをはずして、正しい JRE 1.6 のパスを設定してください。

- SVOM のバージョンが V5.50～V5.51 の場合

以下のように 1 行追加します。

```
for /f "usebackq delims=" %%i in
(`"%JBOSS_HOME%¥server¥serverview¥bin¥getjavahome.exe"`) do set
JAVA_HOME=%%i
set "JAVA_HOME=C:¥opt¥jdk1.6.0_13"   ←★この 1 行を追加します
```

「JAVA_HOME=」の後に、正しい JRE 1.6 のパスを設定してください。

追加する行は、上記「for /f "usebackq delims=～」の行の後に記載する必要があります。

また、JRE をアップデートした場合、JRE のパスが変更され、Web サーバが起動できなくなる場合がありますので、その都度、JRE のパスを確認し、変更されていれば書き換えてください。

例）・32 ビット版 Windows OS の場合

set "JAVA_HOME=C:¥Program Files¥Java¥jre6"

・64 ビット版 Windows OS の場合

set "JAVA_HOME=C:¥Program Files (x86)¥Java¥jre6"

ファイル編集後、以下の順に SVOM のサービスを再起動してください。

サービスを停止する:

1. ServerView Download Services
2. ServerView Services
3. ServerView JBoss Application Server 5.1

サービスを開始する:

1. ServerView JBoss Application Server 5.1
2. ServerView Services
3. ServerView Download Services

10.4 SVOM の画面読み込みに時間が掛かる

Web ブラウザや、JRE の一時ファイル(キャッシュ)に不要なデータが格納されている可能性があります。以下の一時ファイルを削除してください。

- ・Web ブラウザのインターネット一時ファイル

  Internet Explorer の場合:

  [ツール]－[インターネットオプション]を起動し、「全般」タブの「閲覧の履歴」枠で「削除」を開き、インターネット一時ファイルの削除を行ってください。

  FireFox の場合:

  [ツール]－[オプション]を起動し、「詳細」を選択、「ネットワーク」タブの「キャッシュされた Web ページ」項目にある「今すぐ消去」を実行してください。
- ・JRE のインターネット一時ファイル

  Java コントロールパネルを起動し、インターネット一時ファイルの「設定」より「ファイルの削除」を行ってください。

10.5 SVOM から監視対象サーバにログイン出来ない

SVOM から監視対象のサーバへ設定を行う際、Agents 側サーバの設定によりユーザ ID、パスワードの要求が行われます。この際、ログインが正常に行われずエラーが表示される場合や、再度ログインが要求される場合があります。以下の確認を行って下さい。

- ログインに使用するユーザ ID、パスワードを確認してください

  入力するユーザ ID、パスワードはサーバの OS で作成、許可されている必要があります。サーバの OS 上、または監視対象サーバが利用可能なディレクトリサービス上でユーザ ID、およびパスワードの作成を行って下さい。
- ログインに使用するユーザ ID が管理グループに属しているか確認してください

  Agents の設定によっては、ユーザ ID は管理グループに属している必要があります。グループの有効設定、およびユーザ ID がそのグループに属している事を確認してください。

  以下の Agents ツール、設定ファイルで確認出来ます。

Windows：

Agents Configuration ツール （デフォルトは"FUJITSU SVUSER"グループが設定）

Linux：

/etc/srvmagt/config 設定ファイル（デフォルトは"SVUSER"グループが設定）

- JRE の版数を確認してください

SVOM で使用している JRE バージョンを確認してください。

バージョン 1.6.0_29 では、ログインの制御が正常に動作しない場合があります。1.6.0_29 以外のバージョンを使用してください。

- Agents バージョンを確認してください

ServerView Agents for Windows V5.50 には、正常にログイン出来ない問題があります。

以下の対処を行ってください。

① Agents Configuration ツールを起動し、「セキュリティ設定」タブに移動する。

② "パスワードによる保護を有効にする"のチェックを外す。

③ 「適用」ボタンをクリックする。

※設定以降、パスワードによる保護は行われません。

10.6 ［メンテナンス］－［システムイベントログ］の内容が文字化けする

監視サーバと監視対象サーバが異なるプラットフォームの場合（Linux にインストールされた SVOM から Windows サーバを監視、または、Windows にインストールされた SVOM から Linux サーバを監視する場合）、且つ、監視対象サーバにおいて、システムイベントログに「原因」「対処方法」などの詳細情報が保持されている場合、シングルシステムビューの下記画面にて文字化けが生じます。

［シングルシステムビュー］－［メンテナンス］－［システムイベントログ］画面の「原因」、「対処方法」

その場合、iRMC の WebUI の［イベントログ］－［SEL の表示］画面にて確認してください。

10.7 「ブレードにいつもこのアドレスを使用する」のチェックが無効になる

V6.00.07 以前の SVOM では、ブレードシャーシ配下の監視対象サーバで仮想 LAN を使用している場合、[サーバのプロパティ]-[サーバのアドレス]タブの「ブレードにいつもこのアドレスを使用する」のチェックを有効にしても、その後チェックが無効になる場合があります。

SVOM V6.00.09 以降を使用するか、監視対象サーバにおいて仮想 LAN の ID の小さい方に使用したい IP アドレスを設定するようにしてください。

10.8 「スレッシュホールドマネージャの画面右上に「設定が不整合です」と表示される

「設定が不整合です」の表示は、Agents と SVOM 間で監視テーブルの差異（監視項目やサーバのタイプ）がある場合に表示されます。

仮想 OS のホストサーバを通常のサーバとしてサーバリストへ登録すると、Agents と SVOM にサーバタイプの差異が生じるため「設定が不整合です」が表示されます。

監視テーブルの監視対象項目で、"平均値"の値が[N/A]ではなく正しく表示されていれば監視は行われ

ています。

10.9　デスクトップ上に hs_err_pid という名前のファイルが作成される

ServerView Operations Managerを使用中に、デスクトップ上にhs_err_pid*****.logというの名前のファイルが作成される場合があります。これは ServerView Operations Manager が使用している JRE(Java Runtime Environment)の障害によるものです。

これに伴い ServerView Operations Manager の画面が正常に動作しない等の事象が発生した場合は、ServerView Operations Manager の画面を一旦閉じてから、再度開きなおしてください。この事象が発生した場合も、ServerView Operations Manager の内部の動作(SNMP トラップの受信処理やメールの転送処理など)には影響ありません。また、作成されたファイルは削除して問題ありません。

10.10 シングルシステムビューが英語表示される

シングルシステムビューの表示内容の処理とブラウザの表示のタイミングによって内容が英語で表示される場合があります。表示のみの問題であり、監視には問題ありません。

事象が発生した場合、ブラウザを開き直してください。

10.11 トラップの受信に時間がかかる

トラップの処理は 1 件/秒です。多数のトラップを同時に受信した場合は順次処理されるため、テストトラップ等の意図したトラップや、事象発生時のトラップの受信処理が遅れる場合があります。

トラップ受信の対象機器の構成を見直し、トラップ受信量の軽減を行ってください。

▸ Linux

10.12 SnmpTrapListen プロセスが増加する

通常、SnmpTrapListen プロセスはトラップ受信処理が完了すると終了します。

トラップ受信処理時にポート 162 の内部通信が出来ない状況では SnmpTrapListen プロセスが終了されずに残ってしまいます。

SnmpTrapListen プロセスが複数残っている場合は、ポート 162 の内部通信が正常に行えるように設定を行い、SVOM のサービスを再起動してください。

▸ VMware

10.13 ブレードサーバ上の VMware ESXi の IP アドレスが 0.0.0.0 と表示され、監視できない

ESXi のネットワークインターフェイス「vmkX」に仮想 MAC アドレスが割り当てられている状態で発生します。仮想 MAC アドレス は VMware 社に固有の接頭値 '00:50:56:xx:xx:xx' であるか否かで確認できます。

※vmkX の X には、現在使用しているインターフェイスの番号が入ります。

vmkX に割り当てられている MAC アドレスの確認方法

1) vSphere Client で vCenter Server(もしくは ESXi)にログインします。
2) インベントリから、対象の VMware ESXi を選択します。
3) 右ペインの構成タブをクリックします。
4) ハードウェアの［ネットワーク］をクリックして仮想スイッチの一覧から、SVOM で登録している VMkernel Port を持つ仮想スイッチのプロパティをクリックします。
5) 仮想スイッチのプロパティの中で、ポートの一覧から SVOM で指定している VMkernel Port を選択します。
6) 右の画面の[NIC 設定]内の MAC アドレスを確認します。

VMware ESXi のコンソール画面で[Restore Network Setting]を実行することで通常の MAC アドレスが割り振られます。この状態で SVOM 上でブレードシャーシの再登録を行うことで正常に IP アドレスが認識され、監視可能となります。

また、以下の手順で通常の MAC アドレスが割り振られた事例も存在します。

① VMware ESXi のコンソール画面で <F2> キーを押し、Customize System メニューを起動します。プロンプトが表示されたら、root ユーザでログインします。
② [Configure Management Network] -> [Network Adapters]を選択します。
③ vmkX (Management Network) で使用する物理 NIC(vmnic)を 1 つ選択し、Enter キーを押下します。
④ Esc キーを押下し、以下のメッセージが表示されたら、Y を選択して設定を反映します。

```
Configure Management Network: Confirm
You have made changes to the host's management network.
Applying these changes may result in a brief network outage,
disconnect remote management software and affect running virtual
machines. In case IPv6 has been enabled or disabled this will
restart your host.
Apply changes and restart management network?
```

⑤ [Restart Management Network] を選択します。以下のメッセージが表示されたら、Y を選択します。

```
Restart Management Network: Confirm
Restarting the management network will result in a brief network
outage. It may disconnect remote management software and affect
running virtual machines.
Restart management network now?
```

⑥ [Configure Management Network] -> [Network Adapters]を選択します。

⑦ vmkX (Management Network) で使用する物理 NIC(vmnic)を 1 つ選択し、Enter キーを押下します。

⑧ Esc キーを押下し、以下のメッセージが表示されたら、Y を選択して設定を反映します。

Configure Management Network: Confirm
You have made changes to the host's management network.
Applying these changes may result in a brief network outage,
disconnect remote management software and affect running virtual
machines. In case IPv6 has been enabled or disabled this will
restart your host.
Apply changes and restart management network?

⑨ [Restart Management Network] を選択します。以下のメッセージが表示されたら、Y を選択します。

Restart Management Network: Confirm
Restarting the management network will result in a brief network
outage. It may disconnect remote management software and affect
running virtual machines.
Restart management network now?

10.14 VMware vSphere ESXi 5 サーバ の監視が出来ない場合

VMware vSphere ESXi 5 サーバの監視はServerView ESXi CIM Provider を使用して行いますが、CIMProvider はVMware vSphere ESXi 5 のsfcbd サービス機能を使用しています。
このためsfcbd サービスが正常に動作していないとVMware vSphere ESXi 5 サーバの監視が正常に行えません。監視が正常に行えていない場合、sfcbd サービスが正常に動作しているか確認してください。
また、sfcbd サービスを再起動することにより、正常に監視が行えるようになる場合があります。

sfcbd サービスの再起動方法

ESXi Shell から行う場合:

1. VMware vSphere ESXi 5 サーバの ESXi Shell にログオンします。
2. 以下のコマンドを実行し、sfcbdサービスを停止します。

   # /etc/init.d/sfcbd-watchdog stop

1. 以下のコマンドを実行し、sfcbdサービスの状態を確認します。

   # /etc/init.d/sfcbd-watchdog status

   正常に停止していれば、コマンドの結果が”sfcbd is not running”となります。

2. 以下のコマンドを実行し、sfcbdサービスを開始します。

   # /etc/init.d/sfcbd-watchdog start

vSphere Client から行う場合:

1. vSphere Client から vCenter Server または ESXi ホストにログインします。
2. 左側に表示されるインベントリ パネルから対象の ESXi ホストを選択し、[構成] タブ - [ソフトウェア] - [セキュリティプロファイル] を選択します。
3. サービスの [プロパティ] をクリックし、サービス プロパティを開きます。
4. [CIM サーバ] を選択し、[オプション] ボタンをクリックします。
5. サービス コマンドで [停止] をクリックします。
6. サービス コマンドで [開始] をクリックします。
   ※ [再起動] コマンドの場合、タイムアウトして失敗する場合があります。
   このため、[開始] をクリックしてください。

sfcbd サービスの確認方法

・VMware vSphere ESXi 5 サーバの ESXi Shell にログオンし、以下のコマンドを実行

/etc/init.d/sfcbd-watchdog status

正常に動作している場合は、コマンドの結果が”sfcbd is running”となります。

以上